

富士山を世界文化遺産に!



写真提供：窪田 敏

「富士山の日の制定にあたって」

富士山は、その秀麗な姿が古くから信仰の対象となり、文学・芸術作品の源泉となるなど、多くの人々に親しまれてきました。

静岡県では、すべての県民の皆さんが富士山について学び、考え、思いを寄せ、富士山憲章の理念に基づき、富士山を後世に引き継ぐことを期する日として2月23日を「富士山の日」と定めました。

また、県では山梨県や関係市町などと連携して、富士山の世界文化遺産登録に向けた取組も進めています。世界文化遺産登録は、富士山を「人類の宝」として守っていくことを世界に約束することです。この約束を守っていくために、富士山が所在する県として何をすべきか、私たち一人ひとりが真剣に考える必要があります。

「富士山の日」の制定を契機に、より多くの方々が富士山を守る活動に関心を持たれることを期待します。富士山を愛する県民の皆さん、一致団結して富士山を守り、世界に誇れる富国有徳の理想郷「ふじのくに」を創っていきましょう。



静岡県知事 川勝 平太

News List

◎富士山の日(2月23日)制定記念イベント情報

◎『曼荼羅図と富士山の自然』

(静岡県学術委員会委員 増沢 武弘)

◎公開セミナー「富士山を知ろう」を開催

『富士山の日(2月23日)』

制定記念イベント情報

富士山の日制定を記念して県内各所で様々なイベントが開催されます。富士山の世界文化遺産登録や環境保全への取組を学ぶ絶好の機会です。多くの皆様の御参加をお待ちしています。

◎富士山の日制定を記念して 2月23日に開催するイベント

「富士山世界文化遺産フォーラム」

■開催日時／平成22年2月23日(火)
13時15分～16時

■会場／グランシップ会議ホール 風
(静岡市駿河区池田79-14)

■内容／

①基調講演

高階秀爾 氏 (大原美術館館長)

②アトラクション

静岡混声合唱団 TERRA

③パネルディスカッション

【パネリスト】

稲葉信子 氏 (学術委員)

村松友視 氏 (作家)

岸本加世子 氏 (女優)

【コーディネーター】

秋岡榮子 氏 (経済エッセイスト)

■募集人数／先着300名 (要申込)

■応募方法／

ハガキ、電話、FAX、Eメール

■問合せ／世界遺産推進室

054-221-3746
(4ページ欄外を御参照ください)

「ふるさと富士写真展」

■開催期間／平成22年2月23日(火)
～3月7日(日)

■会場／グランシップ3階ロビー
(静岡市駿河区池田79-14)

■内容／「ふるさと富士」がある自治体からの提供による写真展示

■問合せ／県民部政策監(富士山総合調整)

054-222-13302

「富士山に向かって歩こう!」

■開催日時／平成22年2月23日(火)
10時から約2時間

■会場／富士ミルクランド
(富士宮市上井出3690)

■内容／ミルクランドから朝霧高原広見地区をウォーキング(約7.5km)

■問合せ／富士ミルクランド

0544-54-3690

「畜産技術研究所から 厳冬の富士山を眺めませんか」

■開催日時／平成22年2月23日(火)
10時～12時

■会場／畜産技術研究所
(富士宮市猪之頭1945)

■内容／所内からの富士山観望・施設見学・畜産物試食

■問合せ／畜産技術研究所富士山観望係

0544-5210146

◎関連する記念イベント

県立美術館コレクション 「日本画に見る風景 —富士を愛でる—」

■開催期間／平成22年2月20日(土)
～3月28日(日)

■会場／掛川市二の丸美術館
(掛川市長谷1丁目1-1)

■内容／「富士山」と「風景画の変遷」の2つのテーマに沿った日本画の展示

■問合せ／県立美術館

054-2263-5755

「空の日富士山静岡空港 フォトコンテスト写真展」

■開催期間／平成22年2月下旬から
約1か月間

■会場／富士山静岡空港2階富士山回廊
(牧之原市坂口3336-4)

■内容／フォトコンテスト入賞作品の展示

■問合せ／空港利用推進室

054-2221-3539

「223ウォーキング」

■開催日時／平成22年2月21日(日)
9時30分～13時30分

■会場／朝霧野外活動センター
(富士宮市根原1番地)

■内容／ふじつぴーと3776mのウォーキング、富士山講座等

■問合せ／朝霧野外活動センター

0544-5210321

富士山世界文化遺産登録 啓発ポスター(第3弾)完成!!

富士山の日の制定に合わせて世界遺産啓発ポスター第3弾を作成しました。今回のポスターは写真家大山行男氏の作品を用い、富士山を詠んだ和歌を掲載することで、富士山の文化的価値をPRしています。県内の市町役場、図書館、JRの主要駅などに掲示予定ですので、是非ご覧ください。



曼荼羅図と富士山の自然

曼荼羅図に描かれた植生

富士山本宮浅間大社の大鳥居から社殿を見上げると、背景に富士山が美しくそびえ、広がっている。大社に保存されている、室町時代に狩野元信が描いた富士曼荼羅図には、静岡市の海岸、三保の松原から富士山頂までが描かれている。信仰に係る絵図ではあるが、標高が上がるにつれ植物の分布が少しずつ変化し、標高2,500mあたりの位置には森林限界がある様子もしっかり描かれている。曼荼羅図の中にも古い時代の植生を見ることのできるのだ。海岸から中腹までには建物や当時の登拝者の様子がみえる。森林限界以上では特に植物は見られず、山頂まで登る人々の行列がジグザクに続く。古くから、数えきれないほどの日本人がこの山の頂きを目指したのだ。この図からは、当時の富士山信仰に係わるすべてが、この際立った山の山体そのもの、木々、



絹本着色富士曼荼羅図
国指定重要文化財／富士山本宮浅間大社所蔵

さらにその後背は、落葉広葉樹林と常緑の針葉樹林へと続いていく。ブナとミズナラは落葉樹林帯の代表的な種類で、春には新緑、秋には紅葉の美しい色あいを見せる。しかし、大変幹の太い木々が多く、これらのうち、ことにブナはほとんどが高齢木であるため、周辺に子供や若者にあ



静岡県学術委員会委員
増沢 武弘
(静岡大学理学部教授)

草木などの自然に包まれていたことが見てとれる。
ふもとから山頂へ

現在の富士山本宮浅間大社のあたりには、スギ林と照葉林が広がっている。さらにその後ろにはスギ・ヒノキの植林地が広がる。この地域は、植生帯の分類では山地帯といえるが、ここは古くから人が出入りしていた。人々の生活や産業の場でもあつたようだ。

たるブナの幼木が見られない。将来もこの森林が生き続けるとは思えない高齢の社会になってしまっている。

ここより標高の高い常緑の針葉樹林帯はコメツガ、シラビソの林である。浅間大社から見ると一年中黒緑色の林がどっしりとしていて、富士山の重みを演出する堂々たる一帯である。

これより上部では森林限界となつて、あるのはカラマツやミヤマナギなどのわい性低木の群落だ。曼荼羅図ではこのあたりの標高まで緑と建物が描かれている。現在の5合目にあたるこの場所は、江戸時代から人々が集まり、小屋を建てて、山頂までの行程の重要な休憩所および基地となつてきた。山頂までは6時間ほどかかり、岩と砂の荒涼とした斜面を登ることになる。長い道のである。浅間大社の室町時代の曼荼羅図では、登つて行くジグザクの登山道と人が見える。

山頂には浅間神社があり、そばに古くから金明水、銀明水と名づけられた「わき水」を貯めた井戸がある。この水源は山頂の雪や永久凍土によるものである。現在は夏期に水はほとんどないが、古くは山頂で字を書くための墨をする水として使い、「おふだ」などに文字を入れたと言われている。

こういった植物群や植生帯の成り立ちと、地質・地形学的な特徴である富士山の秀逸な形態との組み合わせ、これが信仰と憧憬の対象としての富士山の存在を、

ますます強固なものとしてきたものと思われる。

文化遺産としての富士山を検証していく上で、信仰の場と自然の要素のかかわりを、あらためて大きくとらえることが大切だろう。文化遺産に関わる委員会・国際記念物遺跡会議（イコモス）の関係者が、この自然要素という側面について指摘したのは、富士山という存在の大きさと、自然の意義の深さを認識させてくれるものである。この山の高さや独自の美的要素が、信仰や芸術の対象となつた大きな要素だが、その美しさを構成しているのは、まさに富士山の自然そのものだといえよう。



公開セミナー 「富士山を知ろう」を開催

富士山の文化的価値を県民の皆様様に理解していただくため、県学術委員会委員を講師として3回シリーズの公開セミナーを開催しました。

第1回 『富士山の自然の特性』

■日時 平成21年9月12日(土)

■場所 富士市交流プラザ

■講師 土隆一 氏
(静岡大学名誉教授)



- 講義内容
 - 1700万年前、伊豆半島はフィリピン東方の熱帯火山群だった。それがフィリピン海プレートとともに北進し、200万年前までに本州に衝突した。
 - 富士山は、日本の陸上火山では稀な玄武岩の火山であることから、その衝突の際に南海トラフが折り曲げられ、大量の玄武岩マグマが供給されてきたと考えられる。
 - 富士山の主な湧水は、標高1000メートル以上で降った雨が10年から15年かけて湧き出していることが科学的な分析により判明している。

第2回 『このころのふるさと、富士山の歴史と信仰』

■日時 平成21年10月3日(土)

■場所 裾野市東西公民館

■講師 中村羊一郎 氏
(静岡産業大学教授)



- 講義内容
 - 富士山の噴火は、一般人には理解できない神業であり、噴火を鎮めることが浅間神社の原型となった。
 - 富士山は、漁師や航海者にとって自らの位置を測るための目印だった。特に漁師からは、海上安全、大漁の神様として信仰されていた。
 - 人々は、昔から富士山に人格を与え、神聖なる山として富士山から特別な力をもたらしている。富士山には、原始的な山岳信仰の形態が残っており、世界的にみてもまれな精神の象徴として位置づけられている。

第3回 『富士山は』

いかに描かれてきたか

■日時 平成21年10月17日(土)

■場所 清水テルサ

■講師 片桐弥生 氏
(静岡文化芸術大学准教授)



- 講義内容
 - 『伊勢物語』九段では、「富士山は京都でいえば比叡の山を二十ばかり重ねた程で、形は塩を盛ったよう(円錐型)である」と紹介されている。
 - 鎌倉時代以前は、富士山の実際の姿を見た人が少なく、描かれた絵は山の傾斜が実際よりも急で、高い山ということが強調された。鎌倉時代になると東海道往来が盛んになり、富士山を目にする人が増えたことから、実際の形に近い絵が描かれるようになった。



(受講者皆様には職員手作りの受講証をプレゼントしました)

《現地学習会》

■日時/平成21年11月15日(日)

■視察地/

富士山本宮浅間大社、白糸ノ滝、村山浅間神社、富士山資料館

公開セミナーの受講者を対象に現地学習会を実施しました。

今回の学習会では富士山の世界文化遺産登録における構成資産候補地を視察しました。

参加者からは「富士山について新たな発見があった」、「富士山の文化的価値を再認識できた」、「詳しい説明を聞くことができて非常に興味深かった」などの感想が寄せられました。

来年も同様のセミナーを行う予定です。多数の皆様様の御参加をお待ちしています。



(富士山本宮浅間大社での説明の様子)